

投資・財政計画(説明)

投資についての説明

建設改良費として、平成28年度に浄水場電気設備更新事業(2期)、平成29年度から送水管布設替事業を計画し、その額に浄水場設備更新事業として毎年度500万円を加えた額を建設改良費としております。

企業債償還金については、既存企業債の償還終了などにより平成28年度をピークに減少する見込みとなっております。

本町は昭和50年前後に布設された送・配水管が多くあり、法定耐用年数の40年を超える管路が増加します。基幹管路の一部に耐久性に劣る石綿管が残っており、その更新が課題となっております。

今後の給水人口の減少を見据え、新規起債額を抑制しつつ優先順位に応じた投資を行っていく必要があります。

財源についての説明

収益的収支について、近年の実績から料金収入は年1.5%程度減少する見込みです。支出について、電気設備更新事業により、減価償却費が平成30年度にピークを迎え56,876千円となります。また、高度浄水処理施設、粒状活性炭の入替のため、平成30年度、平成34年度に14,700千円の修繕費の支出があり単年度赤字となります。現在の料金水準は周辺市町村と比較し高くなっており、いっそうのコスト削減を図り、経営基盤の維持する必要があります。

資本的収支について、平成28年度には電気設備更新事業(2期)を、平成29年度からは管路更新を予定しておりますが、今後の給水人口の減少を見据え、新規起債額を抑制していく必要があります。